

産学連携事例

## 静岡大学様「システム要件定義」 授業支援のご紹介

当社では、数年にわたり大学の授業を支援する活動を行っています。

背景としては、学生のIT業界ばなれや入社後のミスマッチ等による離職を食い止め、優秀な人材を業界に向かい入れ、高度プロフェッショナル人材としての活躍を期待しての取り組みです。今回は参考事例として、静岡大学で実施された「システム要件定義」の授業の様子をお伝えします。授業の進め方や特徴、担当されている先生の思い、学生諸君の取り組み姿勢など、企業における若手育成の参考になれば幸いです。

### カリキュラム概要

対象の授業は、情報学部2年次の学生（約80人）向け必須科目です。学生は、この授業を履修するまでに、プログラミング等の授業を通じて、コンピュータに関する基礎知識を獲得しつつある段階です。そして2年次後期の半年間を通じてシステム開発のケーススタディにチームでのぞむこととなります。

以下は、この授業の前半で当社が担当する「要件定義から概要設計まで」のカリキュラム概要です。

日程 形態・時間数	テーマ	ねらい・取り組み
1日目 座学・2時限	オリエン テーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の進め方と評価方法等を伝える</li> <li>チームビルディング（役割分担）</li> <li>各回のスキル修得目標を自ら設定</li> </ul>
2日目 座学・2時限	現状分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>ケースで扱う企業と業界の分析</li> <li>資料から現状業務の流れを理解</li> </ul>
3日目 演習・3時限	ユーザ ヒアリング	<ul style="list-style-type: none"> <li>質問を準備してユーザにヒアリング</li> <li>課題の整理、スコープの明確化、要件の整理、優先順位の設定、コンセプト検討</li> </ul>
4日目 演習・2時限	ユーザ レビュー会	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題と要件の確認、相互理解</li> <li>システム化対象範囲の合意、コンセプト提案</li> </ul>
5日目 演習・2時限	チーム間 相互レビュー	<ul style="list-style-type: none"> <li>要件定義フェーズの振り返り</li> <li>気づき、アイデアの共有</li> </ul>
6日目 演習・3時限	要件の詳細化 （外部設計）	<ul style="list-style-type: none"> <li>機能設計／インタフェースデザイン／DB設計</li> <li>ユーザへの進捗報告と設計方針の説明</li> </ul>
7日目 演習・2時限	ユーザ レビュー会	<ul style="list-style-type: none"> <li>外部設計フェーズの成果発表</li> <li>製造フェーズに向けてのユーザとの合意</li> </ul>

※ 上記カリキュラムは、当社の「システム要件定義」コースを学生向けにアレンジしています。本コースは、企業の若手ITエンジニアの方に、おすすめしたいコースです。裏面の「関連コースのご紹介」をご参照ください。

## 授業の特徴と工夫

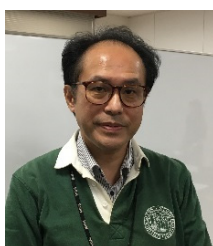
授業はケーススタディに基づいた体験学習形式で進めます。企業講師が扮するユーザを訪問してヒアリングを行う際には、緊張した面持ちとたどたどしい会話になりがちですが、後に貴重な体験だったという感想を耳にします。限られた時間内に順序立てて質問ができるよう、チーム内で意識合わせを行って入念に準備することが成功につながります。あえて1回の訪問人数を絞ることで、ヒアリングから得た情報を持ち帰り、しっかりと共有することの重要性にも気づいてもらえるよう学習設計しています。



一方、期間中数回にわたるユーザレビューの場面では、いきいきとした元気な発表を目にすることが多く、中には社会人顔負けのプレゼンテーションもあります。ただしこの発表は「きちんと要件を定義し設計方針を説明してユーザと合意形成すること」が目的であり、時には「この前のヒアリングでそんなこと言ったっけ？」と意地悪く叱咤されるチームも見受けられます。課題や要件を整理して十分に認識合わせすることがその後の開発工程の成否を左右することに気づき、はじめてのSE経験を通じて高度なスキルが必要であることを実感してもらえれば嬉しく思います。

成績は、個人評価にチームの評価を加点してつけています。当社が担当する要件定義・外部設計フェーズでは、全員にSEの業務報告（日報）を模した「学習ジャーナル」というレポートを課しており、ここに個人目標と成果、活動を通じて得た気づきを記して振り返りを促しています。体験学習がママゴトに終わらず、実のある機会となるよう様々な工夫をこらしてしています。

## 担当教授からの意見



静岡大学 教授 遠藤 正之 情報学部 行動情報学科  
大学院総合科学技術研究科 情報学専攻

NECグループの支援を受けて実践型の体験授業を提供できていることは、学生たちにとって真に有用で貴重な機会である。ITプロフェッショナルの活躍の場や求められるスキルを知ることは、自らの将来像を描くことに加えて、他の授業や研究に対する学習意欲の向上にもつながっていると考える。

## 関連コースのご紹介

### ■ システム要件定義

➤ お申し込み：<https://www.neclearning.jp/courseoutline/courseId/SD384/>

ステークホルダーからの要求および業務要件の内容から、実現性を考慮したうえでシステム要件と非機能要件を定義する手順とその定義内容をケーススタディを用いた演習を通して学習します。

お問い合わせは、下記へ

人材開発サービス事業部 研修申込センター

URL: <https://www.neclearning.jp/> E-mail: [contact@learning.jp.nec.com](mailto:contact@learning.jp.nec.com)

TEL: 03(4330)7560 FAX: 03(4330)7550

●本資料に記載されている社名またはシステム・製品名は、一般に各社の商標または登録商標です。  
●本資料では、TMやRは明記していません。

